

令和5年度 学校評価のまとめ



<評価基準について>

○ 教員、学校評議員

各項目について、5段階で評価

『5』『A』…十分達成している

『4』『B』…おおむね達成している

『3』『C』…達成していない部分が多い

『2』『D』…取り組んでいるが達成が難しい

『1』『E』…具体的な取り組みができていない

○ 保護者

各項目について、5段階で評価

『5』…達成されている(十分に取り組んでいる)

『4』…概ね達成されている(取り組んでいる)

『3』…達成されていない部分がある(取り組んでいない部分がある)

『2』…あまり達成されていない(あまり取り組んでいない)

『1』…達成されていない(取り組まれていない)

○ 児童生徒

各項目について、5段階で評価

『5』…よくあてはまる(そう思う)

『4』…ややあてはまる(どちらかといえば思う)

『3』…あてはまらないところがある(どちらとも思わない)

『2』…あまりあてはまらない(どちらかといえばそう思わない)

『1』…あてはまらない(そう思わない)

I わかる授業づくりについて

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が「わかる授業」づくりを行っていることで、児童生徒は、各教科での理解を深めたり基礎的・基本的事項を習得できたりしているか。	1	7	2		
②	学校が対話と協働による学びを推進していることで、児童生徒は、主体的に考え表現する力を高めることができているか。	1	7	2		
③	学校がICT機器の活用や県立博物館等の利用を効果的に進めていることで、児童生徒は、探究的に学ぶ力や生涯学習への意欲を高めることができているか。	4	4	2		

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		A	B	C	D	E
①	学校が、行っている授業は、児童生徒が各教科での理解を深めたり基礎的・基本的事項を習得できたりする授業になっているか。	○				
②	学校が、対話と協働による学びを推進してきたことは、児童生徒が主体的に考え表現する力を高めることにつながっているか。	○				
③	学校がICT機器の活用や県立博物館等の利用を効果的に進めてきたことは、児童生徒が探究的に学ぶ力や生涯学習への意欲を高めることにつながっているか。	○				

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校では、一人一人の特性や学習進度に配慮した授業が行われている。	1		1		
②	学習プリントやICT機器の活用等により、より分かりやすい学習のために工夫がされている。	1	1			
③	学校では、主体的に考え、表現する力を育てる授業が行われている。	1	1			
④	タブレット端末の活用や持ち帰りにより、自分で調べたり、興味をもって学習したりするなど積極的に課題に取り組んでいる。	1		1		
⑤	おさんは、毎日学校生活を楽しみに登校している。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	先生は、分かりやすく授業を教えてくれる。	2				
②	先生は、プリントや、実験・実習、パソコンなどを使って具体的に教えてくれる。	2				
③	先生は、分からないときには、分かるまで教えてくれる。	2				
④	分からないことがあった時、分からないと言える。	2				
⑤	私は、勉強や学校が好きだ。	1		1		

○考察及び今後の対応等について

わかる授業づくりに関しては、全体的に高い評価であった。毎日の登校の様子や懇談、通知表等から本校の取り組みを十分に理解していただいているものと推察できる。

教員はさまざまな工夫を行いながら、「わかる授業」の実践に努めていることがわかる。一方で、児童生徒の項目⑤について「教科や行事による」という意見がでてくる。保護者の回答をみても、それぞれの児童生徒の実態を十分に考慮し、理解の特性に合わせた内容の精選や展開の工夫、ICT機器の効果的な活用などを行いながら、よりわかる授業づくりに努める必要がある。

2 豊かな心と健康な身体について

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が体験的な活動を充実させていることで、児童生徒は、社会性と自己肯定感を高めることができているか。	3	4	3		
②	児童生徒は、自らの病気や障がいを理解しながら、自他の尊厳と健康を守り、それらを尊重して行動できるようになってきているか。	1	6	3		
③	学校が集団活動を積極的に取り入れることで、児童生徒は、互いに協力する態度をもち、個性を発揮して活動できるようになってきているか。	2	4	4		

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		A	B	C	D	E
①	学校が体験的な活動を充実させてきたことは、児童生徒が社会性と自己肯定感を高めることにつながっているか。		○			
②	学校は、児童生徒が自らの病気や障がいを理解し、自他の尊厳と健康を守り尊重して行動できる教育活動を行っているか。		○			
③	学校が集団活動を積極的に取り入れてきたことは、児童生徒が互いに協力する態度をもち、個性を発揮して活動することにつながっているか。		○			

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	様々な体験的な活動によって、視野を広げ、自己肯定感が育っている。	1	1			
②	地域等との交流及び共同学習によって、社会性やコミュニケーション能力が育っている。	1	1			
③	自身の病気や障がいについての理解が促され、健康な生活を尊重した安心・安全な学校生活が送れている。	2				
④	学校は、道徳教育を充実させ、善悪の判断やルール、儀礼、生命を尊重する心が育っている。	1	1			
⑤	体育の授業や休み時間等に身体を楽しく動かし、心理的な安定が図られている。	1		1		

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	友達に思ったことを話したり、伝えたりできる。	2				
②	もっと友達がほしいと思う。	2				
③	学校生活や友達とのかかわりで困っていることや悩んでいることはない。	2				
④	自立活動でどんな活動をしているかわかる。	2				
⑤	自分の病気や苦手なことが分かったり、上手にできるようになったりしたことがある。	2				

○考察及び今後の対応等について

様々な面で経験や体験等に不足さの感じられる本校の児童生徒にとって、地域との交流及び共同学習や校外での体験学習は、社会性や自他の尊厳を育成するために重要なものである。今年度は昨年度に引き続き、中学部2年生が年間をとおして盛岡青松支援学校とオンラインで国語の交流授業を行うことができた。しかし、わかる授業づくりに比べると、教員、学校評議員、保護者の評価が全体的に低いことから、交通機関利用の制限や、医ケア児の引率体制等種々の課題も伴うため、有用性や必要性について十分な検討は必要ではあるが、今後も意図的、計画的に実施していく必要がある。一方で、児童生徒の評価は全体的に高くなっている。これは、教員の日々の指導が児童生徒達の理解や意欲向上につながっているからだと考えられる。ただ、項目②は2名とも「5評価」であることを鑑みると、積極的な交流及び共同学習の機会を様々な教科等の中で設定していく必要があると考える。

3 自立や社会参加について

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	児童生徒は、社会参加と自己実現の意味を理解し、自らを高めようと積極的に行動できるようになってきたか。	1	5	3	1	
②	学校が職場見学や社会体験を実施したことで、児童生徒は、働くことの意味や大切さを実感し、職業への関心を高めることができたか。		4	5		1
③	学校は、児童生徒への適切な指導や支援を行うために、医療機関や福祉事業所等の関係機関と情報交換や打合せなどの連携を行っているか。	3	4	3		

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		A	B	C	D	E
①	学校は、異動生徒が社会参加の意味を理解し、自らを高めようと積極的に行動できるようにする教育活動を行っているか。	○				
②	学校が職場見学や社会体験を実施したことは、児童生徒は、働くことの意味や大切さを実感し、職業への関心を高めることにつながっているか。		○			
③	学校が医療機関や福祉事業所等の関係機関と情報交換や打合せなどの連携を行ってきたことは、児童生徒の適切な指導や支援につながっているか。	○				

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	お子さんの進路について、家庭で考えるために十分な情報提供がされている。	1	1			
②	職場見学や社会体験を通して、お子さんの職業についての興味関心が高まってきている。		1	1		
③	各種懇談や連絡帳のやりとり等により学校での様子が十分に伝わり、悩みや心配なことは、学校に相談できている。	1	1			
④	学校は、病院や福祉機関などとの連携が十分にとれている。	1	1			

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	竹田校の友だち以外にも友だちがいる。	2				
②	家の近くの学校や別の学校に行きたいと思う。	1				1
③	学校生活でやってみたい学習や活動がある。			1		1
④	将来の進路について具体的に考えている。			1		1

○考察及び今後の対応等について

自立や社会参加に関しては、家庭との連携が大切であるため、年2回の個別懇談を設定して家庭の意思を確認しながら進めているが、評価の低い部分も若干見られることから、進路相談の機会を増やすなど更に丁寧な説明に力を入れていく必要があると考える。

個々の児童生徒が考える将来の社会生活を見据え、少しずつでも課題や困難さを改善または解消していけるよう個々の課題に合わせて個別の指導計画を作成し自立活動の時間を活用して取り組んでいる。課題は、解決に時間を要するものが多いが、それぞれの児童生徒のペースに合わせて日々取り組んでいるところである。児童生徒の結果からみても、今後も児童生徒一人一人の充実した学校生活や将来の希望の実現に向けて児童生徒自身が進路や将来について具体的に考えることができるような授業や指導を実践していく必要があると考える。

4 地域との連携・支援について

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、小中学校と連携しながら学習支援を行っていることで、病気療養児の連続した学びを保障することができているか。	2	7	1		
②	学校は、病気療養の高校生に対して、高等学校と連携しながら教育相談や学習支援を実施できるようにしているか。	1	5	4		
③	学校は、地域の小中、高等学校等のニーズに応じて教育相談や研修会を実施することができたか。	5	3	2		

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		A	B	C	D	E
①	学校が小中学校と連携して学習支援を行っていることは、病気療養児の連続した学びを保障することになっているか。	○				
②	学校は、病気療養の高校生に対する教育相談や学習支援を実施する上で、高等学校と連携ができているか。		○			
③	学校は、地域の小中、高等学校等のニーズに応じた教育相談や研修会を実施することができたか。		○			

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校が、病院や小中学校と連携し、入院生の学習支援を行っていることを知っている。	1	1			
②	学校が、病気療養中の高校生に対する相談や学習保障の支援を行っていることを知っている。	1	1			
③	学校は、各種教育相談など、学校外での支援にも積極的に取り組んでいることを知っている。	1	1			
④	竹田校のWebページにおいて、児童生徒の活動の様子等を広く発信していることを知っている。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	竹田校のホームページに活動の様子が載っていることを知っている。	1		1		
②	竹田校のホームページを見たことがある。	1			2	

○考察及び今後の対応等について

教員、学校評議員、保護者の評価の分布はほぼ同じであり全体的に評価も高い。病棟へのパンフレットの配付・掲示、webページの充実等、本校の取組や役割について、情報発信にも努め、教育相談やセンター的機能を活用した学習支援、入院生への学習支援等に全職員で取り組んできた結果と推察される。また、コーディネーターを中心として、病院関係者、入院人道生徒の原籍校との連携が適切に行われ学習支援としての相談機能を十分に果たせたものとする。さらに、今年度は、全教員が地域支援センター員となり夏季休業中に研修会や地域の学校のニーズに応じた教育相談等を実施したことで、相談支援や研修支援の回数増加につながったものとする。加えて、ICT機器が潤沢であるという竹田校の強みを生かし、今年度から遠隔教育に係るICT機器貸出しも始まり、現在1台貸出し中(高等学校)である。成果と課題を蓄積し、良い形で今後も継続していけると良い。

一方で、児童生徒の評価は全体的に少し低いいため、ホームページを教育活動の中でもホームページを見る場面を設けるなどしても良いと考える。

5 安心・安全な学校づくりについて

○教員の自己評価(回答総数10)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校は、防災・防犯体制の強化と学校事故の未然防止等を行うことで、児童生徒の安全・安心な生活を守ることができているか。	3	6	1		
②	学校は、児童生徒の人権を守るため、多様性を尊重した教育を進めることができているか。	2	6	2		
③	学校は、教職員の事故や不祥事の発生を0にすることができたか。	9	1			

○学校評議員の評価(回答総数1)

	項目	評価				
		A	B	C	D	E
①	学校は、児童生徒の安全・安心な生活を守るため、防災・防犯体制の強化と学校事故の未然防止等を十分に行っているか。	○				
②	学校は、児童生徒の人権を尊重し、多様性を尊重する教育を進めるとともに、教職員の倫理観と使命感の高揚を図り、事故や不祥事を防いでいるか。	○				
③	学校は、児童生徒の人権を守るため、多様性を尊重した教育を進めているか。	○				

○保護者の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	災害時並びに緊急時の対応についての取り組みは十分である。	2				
②	学校は、いじめを許さない学校づくりに取り組み、いじめを未然に予防し、早期発見、早期解消に努めている。	2				

○児童生徒の評価(回答総数2)

	項目	評価				
		5	4	3	2	1
①	学校生活は楽しく、満足している。	2				
②	学校生活で困っていること、心配なことはない。	2				
③	先生には何でも話すことができる。	1		1		
④	困っていることをお父さんやお母さんに相談している。	2				

○考察及び今後の対応等について

全体的に評価が高く、児童生徒が安心して安全に学習に取り組める環境を全職員で意識して取り組むことができていると結果と考える。今後も現在の取り組みを継続し、安心・安全な学校づくりに取り組んでいきたいと考える。

～ おわりに ～

今回は教員、学校評議員、保護者、児童生徒の評価に大きな差異は見られなかった。学校としての取り組みが保護者や児童生徒等から理解を得られていると考えられる。このことから、引き続き学校目標の適切な設定と達成を目指していくことが必要だと考える。今年度の評価を基にして課題を整理し、適切に改善を図り全職員で共通の意識をもって今後も取り組んでいきたい。自立や社会参加についての項目は全体的に評価が低く、また、集団活動の実践についての評価も他に比べると低かった。竹田校の実態を考えると、これらの課題を解決するためには、地域との連携が不可欠である。今年度も取り組んでいる部分ではあるが、さらに積極的に地域とのつながりを深め、協働的、探究的な学びを充実させることや保護者の理解や協力を得ながら児童生徒の自立や社会参加につながる教育活動を展開していくことが重要である。教員一人一人が常に竹田校で果たすべき役割を認識し、全職員で検討・協議・共有を十分に行いながら学校全体で教育活動のさらなる充実に向けて取り組んでいきたいと考える。